

拠点名称：地域を次世代につなぐマイモビリティ共創拠点

代表機関	東海国立大学機構 名古屋大学	プロジェクトリーダー	森川 高行 東海国立大学機構名古屋大学未来社会創造機構 教授
幹事自治体	名古屋市、春日井市	幹事機関	東海国立大学機構岐阜大学 一般社団法人中部経済連合会
参画機関	愛知県立芸術大学、産業技術総合研究所 東海旅客鉄道株式会社、名古屋鉄道株式会社、ヤマハ発動機株式会社、株式会社KDDI総合研究所、 株式会社日建設計総合研究所、岐阜市、愛知県		

プロジェクトの概要

東海地方を含むわが国のほとんどの地域は、マイカー依存型の交通システムになっており、自動車の過大な利用による社会的コストが増加すると共に、マイカーを利用しない人々は日常的移動に困難を感じ、活動の機会が奪われている。このため、地域に住み続けたいが、住み続けられない未来がすぐそこまで迫っており、「マイカー」から「マイモビリティ」への転換が急務となっている。

本拠点では、『みんなの「行きたい」「会いたい」「参加したい」をかなえる超移動社会』をビジョンに掲げ、このような地域において、マイカーを使わない（運転できない、運転したくない）人にも社会に公平なアクセスができるような超移動社会を目指す。具体的には、先進モビリティ技術とモビリティアセットの共有化という技術及び制度のイノベーションと総合知活用によって、マイカーを使わなくても快適に移動できる地域モビリティシステムを実装し、活動機会やビジネスチャンスの増加を通して持続的な地域創生を推進する。また、名古屋大学に新設された Future Society Studioでの総合知的活動を活かし、大学、自治体、市民、企業とのアンダーワンルーフ体制による移動課題解決ができる地域共創の場を構築する。

地域を次世代につなぐマイモビリティ共創拠点

みんなの「行きたい」「会いたい」「参加したい」をかなえる超移動社会

マイカーを使わない人にも社会への公平なアクセス機会を！

ターゲット1

地域モビリティ充実による
社会参加機会と
ビジネスチャンスの増加

ターゲット2

移動ストレスが減り、移動が楽しくなり、社会的コストも最小化する地域モビリティシステムの実装



ターゲット3

「東海地域モビリティモデル」の確立と他地域への発信・展開

研究開発 課題1

フラッグシッププロジェクトを通して漸進的に地域を創生

- ・名古屋市と春日井市を結ぶ名古屋東北回廊プロジェクト
- ・歴史的商業地区再生プロジェクト
- ・遊覧都市再生プロジェクト

応答型 (PDCA) 研究開発

研究開発課題2

公共財PF

ソフト
リアル

運行の仕様、情報の規格・フォーマット

研究開発課題3

地域モビリティシステム



研究開発課題4

多感覚インフォテインメントシステム



研究開発課題5

総合知の活用

Quality of Mobility Life (QoML)



心理的well-being